

日光市栗山郷の魅力に迫る!①

今こそ注目される、 獣害と戦うハンター

全国で深刻な鳥獣被害問題。日光市も例外でなく、シカ・サル・イノシシなどによる農作物の被害が増えています。この問題と戦う現役ハンターであり、栗山猟友会会長の福田正文（ふくだ まさふみ）さんに、狩猟のことを伺いました。

狩猟はどんなふうに行っている？

昭和初期の頃、栗山のほとんどの家に鉄砲がありました。当初は、貴重な現金収入として、獣の毛皮を売ることが狩猟の主な目的でした。「有害駆除」としての狩猟が栗山ではじまったのは昭和 60 年頃。平成 28 年には獣害による農作物への被害総額が県内で年間 3 億 200 万円を超え、狩猟などによる対策が急がれています。

どんな装備や道具で狩猟を行うのでしょうか。「まず銃と弾です。それから獣の解体に使うナイフ、無線機、かんじき、クマの毛皮で作った防寒用の腰当などです。服装は、誤認防止のためオレンジ色の衣服を身につけます」

「狩猟期間は 11 月中旬から～ 2 月末まで。それ以外の期間でも、「有害駆除」としての狩猟が県に認められています」

福田さんの狩猟チームでは「追い込み猟」がメインです。

「シカなどの獣を追う「セコ」と、打って仕留める「タツ」にわかれて実施します。」

福田さんは 20 代後半から狩猟をはじめました。ハンターだった父親や友人たちの影響を受けたのがきっかけ。だんだん魅力にハマっていきました。



福田正文さん



狩猟の基本は山をよく知ること。狩猟シーズン以外にも、春の山菜採り、夏と秋のキノコ採りなど、一年中に山に入っています。

狩猟をやっていてよかったこと

ハンターになってから、地域の方に感謝されることも。昔、駆除したサルを持って地元の方へ報告しに行ったときのこと。

「畑仕事をやっているおばあちゃんたちが『お前のせいで畑のものを食われた!』と倒れているサルに怒りだしました。

畑仕事は生活の一部。大切な農作物を台無しにしてしまうのを、決して許すことはできないのです。



狩猟で1番うれしいことを聞くと「シカの大群がゾーっとやってきたときです」とハンターらしい回答。また、猟がおわったあとのランチタイムや打ち上げも、楽しみの1つだとか。



打ち上げではお酒をのみながら、その日の狩猟のことを中心に語り合います。

後継者づくりの課題と体験ツアーへの期待



獣害の被害は増える一方で、ハンターは年々減っています。福田さんがはじめた昭和30年頃は地域周辺だけで100人以上のハンターがいました。今は栗山猟友会全体で34人（うち罫9人）。

「ハンターも高齢化が進み、足腰などを痛めてやめる方もいます」

ハンターを増やすため、日光市では平成22年に獣害の捕獲に対する報奨金制度ができました。また銃の購入や免許取得に対する補助制度もあります。それでも、後継者不足の問題が深刻です。

「このままだとハンターがいなくなってしまう。自分たちの世代のあと、誰が有害獣とみなされるサル・シカなどから栗山の地域を守るのか？」そうした中、2年前からツアーとして狩猟の一部が体験できる機会ができました。そこでは「狩猟をやりたくなった」という参加者も。

「体験ツアーなどで、まずは狩猟に興味をもってくれる人が増えるとうれしいです」

「鬼怒川源流・栗山ツアー」 でハンター体験!

狩猟現場の見学、シカの皮剥や、
ジビエ料理の試食などを、
現役のハンターたちと一緒に体験できます。

実施時期	2月
所要時間	1日（宿泊者限定企画）
交通手段	マイカーまたは野岩鉄道会津鬼怒川線 川治温泉駅から送迎
参加方法	kuritour.jp から申込可能